鉄砲洲神社素読論語　解説

（平成 24 年 3 月 23 日）

郷党 第十

孔子の食生活です。何が好きで、何が嫌いかというより何を食べないのかという事ばかりですので、御自分の食生活をあてはめてみると面白いかと思います。

【八】食は精を厭わず。膾は細を厭わず。食の饐して餲し、魚の餒して肉の敗れたるは食わず。色の悪しきは食わず。臭の悪しきは食わず。飪を失えるは食わず。時ならざるは食わず。割の正しかざるは食わず。其の醬を得ざるは食わず。肉多しと雖も、食氣に勝たしめず。惟酒は量無し、乱に及ばず。古酒市脯は食わず。薑を撤せずして食うも、多くは食わず。公に祭るときは肉を宿せず。祭の肉は三日を出さず。三日を出づれば之を食わず。食うに語らず。寝ぬるに言わず。疏食菜羹瓜と雖も祭るときは必ず斉如たり。

孔子は、ご飯は精米した物を好み、なますは細かく刻んだものを好む。「厭わず」というのは好むという事です。ご飯がすえてしまって味が変わったものや、痛んだ魚、肉が腐ったりしたものは食べなかった。色が悪いものや、臭いの甚だしいものは食べなかった。料理の仕方が悪いものも食べなかった。

今に合わせてみると、いかがでしょうか？

―現代でも臭いの悪いものは、食べないですね。

「飪を失える」というのは、湯加減がよくないという事です。これは家庭で奥さんが拵えたもので料理の仕方が悪いから食べないというのは、夫婦喧嘩または離婚の原因になりますから、少しぐらいおかしなものでも、我慢して食べるというのは結構あるのではと思いますが…どうでしょうかね？

孔子は、旬のものばかりを食べて、季節はずれなものは食べなかった。切り方の悪い肉は食べなかった。これは奥さん大変ですね。だし汁が悪いと食べない、下地が悪いとちょっと口をつけただけで食べない。肉をたくさん食べた時でも、ご飯の量よりは少なくしている。ご飯の量と肉の量のどちらが多いかといえば、ご飯の量を多くしている。

孔子は酒を底無しに飲んでいたけれども、乱れなかったという言い方を多くの学者は言っていますが、読み方は学者によって違います。本人が満足するまで酒を飲ませないと、暴れてしょうがないという解釈をする学者もいます。おもしろいです。ただ、はっきり分かるのは、孔子はお酒が好きだったが、乱れることがなかった。安岡正篤先生は、お酒が大好きでしたが乱れなかったのは、この文章を意識していたのではなかっただろうかと思います。御本人は酒の稽古をしていたそうですから…。

市場で売っている正体のわからない酒や、肉の干物みたいなものは食べない。みな自分

の家で作っているものしか食べなかった。口直しで生姜を食べる時には、捨てないで食べるけれども、多くは食べなかった。奥さんにとっては、かなり大変なご主人だったでしょう。孔子の衛生面の注意深さは、娘を嫁がせる時に親が言う科白としては良いと思います。

君主から祭祀で肉の供物がお下がりで下げ渡された時には、その日の内に戴くようにする。自分の家で祖先のお祭りをした時、三日を過ぎた場合は食べなかった。言い方を変えると、肉は三日間おかないで食べてしまう。今とだいぶ違いますが、食べる時には、話もせず一生懸命食べなさい。横になったらお喋りしないで、すぐに寝なさいと言っています。

「疏食 菜羹 瓜」の、疏食は粗末な食事、菜羹は野菜汁みたいなもの、瓜はうり、このようなものを出した場合といえども、祭る時には最初の収穫物を捧げる。必ず厳粛な態度で恭しくつつましい行動をとるものです。

この章は孔子が言っていたものではなく、周りの弟子達が先生はどういうものを食べているのか、よく先生を観察して弟子達が言っている言葉ばかりです。弟子達が興味津々で孔子の食生活を見て、それがまた礼儀作法のもとになっていったのだろうと感じます。ただ面白いのは、お酒はいくらでも飲めて底なしだったが、乱れることはなかった。お酒の好きな方は、ここら辺は楽しい部分かと思います。